

デジタル・DX化伴走型支援

～企業ドクターが
あなたの会社を応援します～

TOPIC



当所の令和8年度事業計画では、デジタル・DX化伴走型支援の強化を重点事業として位置付けています。人手不足への対応はもとより、事業の継続・発展等にデジタル・DXは不可欠になっていきますが、取組を進めるためには専門家の協力が欠かせません。

これまでも、セミナーの開催や個別相談等でデジタル・DXについて支援を実施してきましたが、今年度は、DXによる経営改善の伴走型支援に多くの実績を有する、(株)フォーバル北海道・東北カンパニーと連携した伴走型支援事業を実施します。

ESG経営とDX

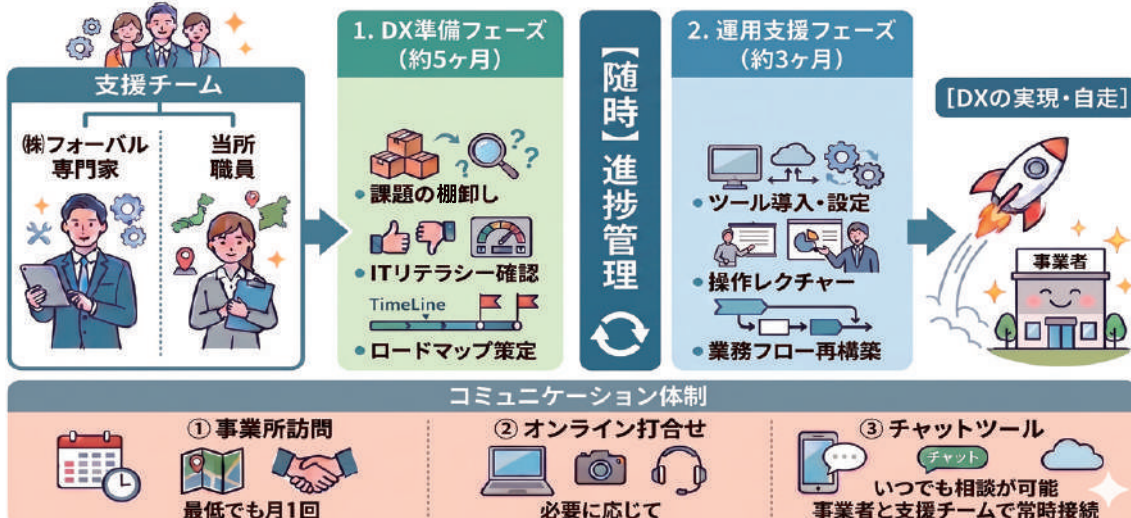
企業が長期的な成長を実現するためには、「社会から選ばれ続ける企業」となることが必要です。そのためには、ESG（環境・社会・ガバナンス）の観点を経営に取り入れることが重要です。既に地方自治体や地域の中核企業では、ESGの視点からビジネスモデルの変革が進んでおり、小樽市内の中小・小規模事業者がこの流れに取り残されないような環境整備が

求められます。

ESG経営は、DXによる経営改善から始まるものであり、DXで得られた効率化やデータ活用成果を基盤に、次のステップとしてESGの視点を経営に組み込むことで、持続可能なビジネスモデルを構築し、長期的な成長が可能となります。したがって、DXはESG経営への道筋を開く重要な第一歩であるといえます。

伴走型支援の進め方

今回、そのDXを進めるための伴走型支援事業をスタートすることになります。支援を受ける事業者に応じて、(株)フォーバルの専門家「企業ドクター」と当所職員とが支援チームを形成します。支援の頻度は、事業所訪問を最低でも月に1回実施し、必要に応じてオンラインで打合せ等を行います。また、常時コミュニケーションが取れるようチャットツールを事業者と支援チームとの間で開設し、いつでも相談が可能な体制を構築します。支援の進め方は、「DX準備フェーズ」(5カ月)と「運用支援フェーズ」(3カ月)と「運用支援フェーズ」(3カ月)と「DXの実現・自走」



エーズ」(3カ月)の2つのフェーズに分けたうえで、随時、進捗管理を行う形で進めます。(図1)

(図1) 伴走型支援の進め方